

No. 72

2019.8

世田谷文学館NEWS

SETAGAYA LITERARY MUSEUM

館長の作家対談

蓮實重彦(文芸・映画評論家、フランス文学者、小説家)



収蔵品のご紹介 寺山修司 仁木悦子宛て書簡

2018(平成30)年度世田谷文学館事業報告

生頼範義《小松左京氏肖像》(『小松左京マガジン』第29巻表紙画)2008年

館長の作家対談

ゲスト
蓮實重彦
 (文芸・映画評論家、フランス文学者、小説家)

聞き手
菅野昭正
 (世田谷文学館館長)



蓮實重彦(はすみ・しげひこ)

文芸・映画評論家、フランス文学者、小説家。東京大学第26代総長、東京大学名誉教授。1936年東京生まれ。東京大学大学院人文研究科仏文学専攻修了。パリ大学大学院より博士号取得。『反=日本語論』(77年)で読売文学賞、『凡庸な芸術家の肖像 マクシム・デュカン論』(88年)で芸術選奨文部大臣賞、『監督 小津安二郎』(83年)で仏訳映画書翻訳最高賞、『伯爵夫人』(2016年)で三島由紀夫賞を受賞。著書に『映画の神話学』『表層批評宣言』『「ボヴァリー夫人」論』ほか多数。仏芸術文化コマンドゥール勲章受章。

フランス文学、映画、現代思想、日本文学と多方面で精力的な評論活動を続け、2016年には小説『伯爵夫人』で三島由紀夫賞を受賞した蓮實重彦さんをお迎えし、当館館長がお話を伺いました。

学習院での日々

菅野▼蓮實さんとは長い付き合いになりますね。

蓮實▼今日はインターネットに掲載されている蓮實重彦年譜を持つてきました。年譜によると「1953年4月、高等科2年次よりフランス語を第二外国語として選択、菅野昭正講師ほかから初級の手ほどきを受ける」とあります。

菅野▼半世紀以上昔の話ですね。あの頃の学校は当今と違って大らかなところがあつたように思います。僕は当時、学習院の授業の開始が朝8時30分と早かつたので、到着が遅れがちになることがありました。やつと教室に着くと、黒板に「我らルーエにあり」と書き残してある。

蓮實▼喫茶店のルーエですね。(笑)

菅野▼しょうがないから、学生諸君のいるルーエまで行つて、そこで授業をしたことがあります。

ルーエは目白駅の向こう側なのに、なぜか途中ですれ違わないんだよね。53年という、僕が大学を出た年です。教えるなどというのは誠に厚かしい話で、学生諸君にとつては頼りない迷惑だったでしょうね。

蓮實▼そんなことはまったくありません。まだまだお若く、兄貴分的なところに惹かれておりました。また、東大の仏文科を出ておられることに、ひそかな憧れも持っていました。ただ、先生が1分でも遅れられると、我々はたちどころにどこかに姿を消してしまう……。

菅野▼それにしてもあの頃、あなたが文学青年だったとは思ひもかけませんでした。

蓮實▼文学青年は気取らずに、映画を見たり、スポーツばかりする日々でした。

菅野▼スポーツは何をしていたのですか。

蓮實▼陸上競技です。円盤投げ、砲丸投げなどの投擲、競技、それからハイジャンプが得意でした。円盤投げは、中等科のときに新宿区の大会で優勝、東京都の大会で4位か5位になりました。

菅野▼当時は土曜日の午前中にも授業がありましたね。いつか土曜の午後に、皆で映画を見に行った記憶があります。『バルテルミーの大虐殺』だったかな。

蓮實▼『バルテルミーの大虐殺』(54年)と『ボルジ

やんちゃ坊主を演じておりました

菅野▼学習院中・高等科の頃から、文学的な関心は持たれていましたか。

蓮實▼ヴェルコール『海の沈黙』などを読み、それなりに感動していました。また、マルタン・デュ・ガールの『チボー家の人々』は当時、翻訳書の刊行が小津安二郎の映画『麥秋』で描かれるなど一世を風靡しましたが、同級生の父親が訳者の山内義雄さんだったこともあって、フランス文学にも興味を持ち始めました。日本の作家は、なぜか谷崎潤一郎が好きでしたね。

菅野▼谷崎は初期ですか？ それとも同時代的なものを読まれましたか。

蓮實▼谷崎が「毎日新聞」に連載していた小説『少将滋幹の母』を必死に読んでいた記憶があります。ただし、先生の前では文学青年なんてとても気取れませんから、やんちゃ坊主を演じておりました。だから、仏文に行きたいなどとはおくびも出しておりませんでした。

菅野▼そういえば、ウィリアム・モリスの研究家だった英文学者の小野二郎に英語を教わっていたそうですね。

蓮實▼彼は母の従弟にあたるので、中学のときに家庭教師に来てもらいました。菅野先生は東大で小野二郎と同期になりましたか。

菅野▼いやいや、僕は旧制大学最後の卒業生です。彼は新制の1回生でしたから、学生時分は全然知りませんでした。のちに、明治大学で教えたときに同僚として顔を合わせたのが初めてですね。それ以前に、彼は晶文社の編集者だったので名前は知っていました。あなたが小野君と姻戚関係だということを聞いた記憶があります。家族的な付き合いもあったのでしょうか。

蓮實▼やはり映画などに連れて行つてくれたりしました。あの頃の彼はかなり



小津安二郎とフランス

菅野▼蓮實さんは『監督 小津安二郎』をお書きになっていますが、小津の作品は中高生の頃から見ていたのですか。

蓮實▼見ていました。

左傾化してまして、一緒に井の頭公園の野外舞台で前進座の芝居『真夏の夜の夢』を見たのですが、劇中にいきなり何の関係もなく「民主政府成立万歳」とかプラカードを掲げる一幕があつたりして、面白いなと思つた記憶があります。当時はまともなコーヒー専門店に行くのが、我々のような中高生には難しいところがありました。小野二郎が「コーヒーを飲みに行こう」と言つて、銀座あたりの美味しいお店に連れて行つてくれたりしたのを記憶しています。彼からは、批評なら寺田

透を読めと勧められ、必死に読んだものです。寺田田先生には教養学部時代にフランス語も教えていただきましたが、この先生も一時間目の授業に遅刻ばかりしておられたので、そんなときは渋谷の早くからやっている式番館(二番館、旧作を上映する映画館)に映画を見に行つてしまい、授業の記憶はほとんどありません。

ア家の毒薬』(53年)でした。鮮明に覚えているのは、クリスチャン・ジャック監督の『ボルジア家の毒薬』です。これはフランス映画が革新される以前のかつたるい作品ですが、日本で初めてマルティヌ・キャロルがオールヌードを見せるというので、先生に連れて行つて下さいと。

菅野▼丸の内の邦楽座に行きましたね。

蓮實▼今は丸の内ピカデリーになっていたところですが。フランス語の履修生は10人ほどでしたが、それでも制服姿でかなり目だっていました。その連中が劇場で席が空いたから、いつせいに立ちあがつて、「先生、空きました」と大声で呼びかけると、菅野先生が「先生なんて叫ぶな」と真顔でおっしゃつたりして。

菅野▼そんなこともあつたかな。先生なんて呼ばれるのが照れくさかつたのでしうね。ところで、映画はいつ頃から関心を持ち始めていたのですか。

蓮實▼中学ですね。映画は家族が連れて行つてくれましたが、西部劇なんかは見せてくれない。ところがこちらは西部劇が見たくてしうがなくて、学校から帰ると制服を脱いで着替えてから、近所の下北沢のオデオン座や笹塚館などに通いつめました。ハリウッドの活劇は、親にかくれてこっそり見ていました。

菅野▼初期のものを見るのは当初は難しかったのではないですか。

蓮實▼初期のサイレント作品は丁度、私がフランスから帰ってきた頃に最初の小津のレトロスペクティブがあつて、そのときですね。東大大学院博士課程からフランス政府給費留学生として渡仏して、パリ大学で博士論文を書いていましたが、フランスでも日本映画の特集をしていましたが、パリでも溝口健二や小津の初期のものをしています。

菅野▼そうでしたか。パリではシネマテークの日本特集などですか。

蓮實▼シネマテーク・フランセーズです。1963年に日本映画の特集があつて100本くらい上映されました。現在の私の妻(ベルギー人)が小津の映画にびつくりして、誰か小津について教えてくれというので、そこで付き合い始めたというような経緯があります。

菅野▼フランスでは当時から、小津の映画はすでに人気があつたのですか。

蓮實▼日本では小津はほとんど上映されないのに、パリだと結構上映されていました。フランス人の中にも一部にはOZU、OZUと狂つたようなことを言う人はいたのですが、一般的には、溝口健二のほうが遥かに高い評価を受けていました。

菅野▼黒澤明の映画はどうでしたか。

蓮實▼パリだとなぜか、黒澤よりも溝口でしたね。

菅野▼戦後、多分『羅生門』以来海外で日本映画が注目されるような風潮が生まれて、その輪が次第に広がり始めた時期なんですね。

蓮實▼やはり小津はモダンな人だったと思います。1930年の『その夜の妻』などを見ると、本当にそう思

います。

菅野▼戦前の作品はそうでしょうね。あの時代の、文学的にもモダンズムと言われた流れに並行している面もあつたのではないでしょう。

蓮實▼雑誌の「新青年」とか、ああいうモダンな感じですね。

菅野▼小津の映画については、蓮實さんの前で言うのは恥ずかしいのですが、小津映画の評価が高くなつた頃、何となく肌が合わない感じがしていました。間の取り方がちよつとピンとこないのかな。かなり長く間を置く場面があるでしょう。一人が何かゆつたりと話してから、かなり沈黙の間があつてようやく相手が応じます。例えば、映画の最後の蒲郡での場面で、そんな印象を受けたことがあります。あの作品は何というタイトルでしたかね。30秒くらいの間が長すぎる感じだったんですね。

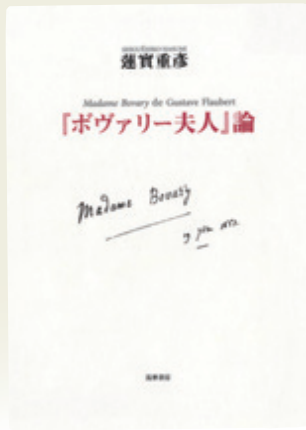
蓮實▼蒲郡が出てくるのは『彼岸花』だと思います。しかし、ショットはそこまで間は長くないはずですが、それでも劇的な状況に変化が生まれないので、長く感じられるのだと思います。

菅野▼シックエンスを組み立てるのは上手だと思ひし、ひとつひとつの画面は実に見事に構成されていますが、繋がりの部分で何となく違和感を感じることがあるんですね。連続性を断ち切られるとでもいいのか。

蓮實▼小津は、連続性をむしろ断ち切るようなところもありますから。そういえば、今フランスで非常に新しい映画を撮っているギヨーム・ブラックという人がいます。『Un monde sans femmes』(邦題『女っ気なし』2011年)なのですが、先日、彼が来日して会つたときに、「成瀬がすごい」と言うんです。やはりショットが、成瀬の場合は見え見えのショットは撮りませんが、けれども、小津は「これがショットだ」みたいなショットを撮ります。だから、ヨーロッパでも小津のような映画は人気が衰えませんが、人気というより、しかるべき人がしっかりと見えています。つ



『伯爵夫人』2016年 新潮社



『「ボヴァリー夫人」論』2014年 筑摩書房



『監督 小津安二郎』増補決定版 2016年 筑摩書房(単行本は2003年)

い最近も、映画評論家のジャン＝ミシェル・フロンドが戦後の小津作品だけの本（*Trize Ozu, 1949-1962, 2010*）を書きました。いまだに小津の映画は語られ、見られ続けてはいます。

フローベール『ボヴァリー夫人』

菅野▼ところで蓮實さんは、学生時代に小林秀雄信者になったことはないのでか？

蓮實▼読んでいたけれども、それよりは、自殺した一高生の原口統三（二十歳のエチュード）などに強く惹かれていた気がします。小林秀雄に引きつけられたことは一度もありません。

菅野▼反発を感じることもありませんでしたか。それとも無関心でしたか。

蓮實▼むしろ無関心で。まわりからは笑われるのですが、中村光夫さんの書いているものに何か惹かれるところがありました。

菅野▼中村さんは、小林さんに対する一種のアンチテーゼのようなつもりで、ずっと啓蒙的に批評を書いておられたところもあるでしょうからね。師弟関係のようだけれど、本当は随分距離がありますね。蓮實さんは、中村さんと個人的なお付き合いもありましたか。

蓮實▼鎌倉のお宅にも何度か伺いましたし、フランスでも一緒に過ごさせていただきました。ルーアンの図書館にお連れして、『ボヴァリー夫人』の草稿に目を通していただきました。ちょうど『ボヴァリー』を訳しておられた頃だったので。

菅野▼フローベールの関係もありますね。中村さんの評論『フロオベールとモウパッサン』などはどう思われますか。

蓮實▼戦前の当時、日本ではフローベールの初期作品はあまり知られていませんでしたが、中村さんはしっかりと読んでおられたですね。そういう点では、非常に生き生きとしていると思います。ただしモウパッサンの方は、私はあまり説得されませんでした。

菅野▼フローベールはいつ頃、何がきっかけで読

みになられましたか。

蓮實▼駒場で最初にフランス語を教わった山田（じやう）先生に、「てめえら、『感情教育』というものを知らねえだろう」と言われました。

菅野▼フローベールの『感情教育』。齋さんは教壇で「てめえら」なんておっしゃるのですか？

蓮實▼それはコンパの席で、かなりアルコールが入っていたときだったと思います。敬愛しておられた批評家アルベール・チボーデ経由で、『感情教育』には終わりはないんだ」ということを盛んにおっしゃって。授業でチボーデのフローベール論の抜粋を読んでおられました。当時ですから、ガリ版刷りの教科書でした。そこで『感情教育』をもう一度読み返しました。それまでごく普通にモリアックを読んだりしていましたが、大学に入ってから、フローベールの方が遥かに重要な作家だと思うようになりました。やはり齋先生

の影響が大きかったと思います。

菅野▼フローベールの『ボヴァリー夫人』という、僕は物見遊山の気分で『ボヴァリー』の舞台とされているリー（仏ノルマンディー地方の村）に行ったことがあります。ちょっと、小説の筋を仕組んだ粗末な人形劇がある程度で、げんなりした記憶もありますが。

蓮實▼あそこは結構行くのが面倒ですね。私もバスを乗り継いで行きました。小説に出てくる架空の村「ヨンヴィル＝ラベイ」のモデルが「リー」だという説は、今ではほとんど誰も信じていません。菅野▼それが定説になっているんですか。フローベールの仕事場があったクロワッセの記念館にも行きましたが、もつと整備されてもいいのという感じでしたね。

蓮實▼クロワッセは何度か行きました。

菅野▼周辺は工場や鉄道の貨物駅が立ち並んだと



菅野▼戯曲集『近代能楽集』などはかなりの水準のものですね。

蓮實▼そういえば、三島は1957年に『近代能楽集』をニューヨークのブロードウェイで上演しようとして挫折したことがあります。このときに当時は銀行家だった評論家の瀬川昌久さんが現地で世話をしたと聞いています。瀬川さんは三島と学習院時代からの同級生で今95歳なのですが、ジャズの国際的なオーソリティーで、すごくエネルギーが豊富です。毎日ピットインなどのライブハウスにマチネで通い、まだあまり知られていない良質なミュージシャンを発掘するようなことをなさっています。

最近の映画、今の文学

菅野▼蓮實さんはそれにしてもよく、映画を沢山

見ている時間がありますね。一日48時間あるような感じですね。月に映画は何本くらいご覧になるのですか？

蓮實▼最近では5、6本くらいでしょうか。本当は映画批評家なら10本見ないといけないです。昔は悪いものでも何でも沢山見ていました。

菅野▼最近の映画で何かお勧めはありますか。

蓮實▼中島貞夫監督は83歳で最新作『多十郎殉愛記』を撮りました。ちゃんばら映画で、パンフレットに作品評を書きましたが、これは大変優れた作品だと思います。中島さんは東大の美学でギリシャ悲劇などをやっておられた先輩にあたります。あとは『寝ても覚めても』の濱口竜介監督も、雑誌で対談したり作品評を書いたりしましたが素晴らしい。ほぼ同世代の三宅唱監督の『き

みの鳥はうたえる』にも感動しました。黒沢清監督の新作『旅のおわり世界のはじまり』も非常に

覚えていますが、フローベールが閉じこもっていた時代は全然あんな光景ではなかったでしょうね。蓮實さんの場合はフローベールとの付き合いも随分長くなるので、もうこれから卒業でしょうか？立派な論文も完成されたし。

蓮實▼いやいや、いまだに。フローベール学会などでの研究を続けています。「ウーロップ」（仏文芸雑誌*Europe*）などがフローベール特集することもあり、そういう媒体に書いたりしております。

菅野▼例えば、スタンダール研究家というのは『赤と黒』派と『パルムの僧院』派とが截然と分かれますね。あれも面白いところですが、フローベール研究家の中では、『ボヴァリー（夫人）』派と『感情教育』派のようなものはありますか。

蓮實▼それほどはっきりと分かれていません。『感情教育』は話も取つき易いじゃないですか。対して『ボヴァリー』というのは色々、抵抗したいなものがどうしてもありますので、それを越えてしまおうとやはり、『ボヴァリー』の方が遙かにいいと私は思います。むしろ、フローベール研究では『ブヴァール（とベキュシエ）』かそれ以外のものか、というグループ分けのようなものはあるように思います。

小説『伯爵夫人』

菅野▼話は変わりますが、最新作の『伯爵夫人』をお書きになるとき、三島由紀夫のバロディーを意識されましたでしょうか。

蓮實▼いや、バロディーなどという不適な気持ちはありませんでした。

菅野▼ただ、三島のがちよつと出てくるでしょう？それから、名前は記されませんが吉田健二のことが出てきますね。吉田健二は母方の祖父が牧野伸顕です。それは間違いないですね。

蓮實▼はい、そうですね。あれは私の祖母などから、伸顕さんのお孫さんがぐれて、というような話を聞いていました。

面白い。今までのホラーとか活劇とは若干変わっていますけれどね。今度は音楽大メロドラマで驚きました。前田敦子が無条件にいいのです。最近の日本映画はいいですね。

菅野▼文学——小説の方はどうですか？

蓮實▼『電車道』の磯崎憲一郎などは面白い作家だと思っています。それから『シンセミア』の阿部和重は、映画のことも詳しくて才能のある人ですね。あとは中原昌なども。

菅野▼女性作家はどうですか。

蓮實▼川上未映子さんなど上手いと思います。笹野頼子さんの『二百回忌』も面白いですね。松浦理英子さんも素晴らしい才能があると思います。『a b さん』の黒田夏子さんの独特な言葉遣いには、深く魅了されています。ただし、女性作家で河野多恵子さんみたいな人は、もういない気がします。

菅野▼ああいう人はね、それこそ旧制なんです。

蓮實▼そうそう、旧制。私は河野さんが一番好きでした。『みいら採り猟奇譚』など素晴らしい。とても小手先では書けない感じがして、あの方は戦後の女流作家で一番すごい人じゃないかという気がします。

菅野▼今日はお話していて非常に楽しかったけれど、何だか雑談みたいになりましたね。

蓮實▼楽しく無駄話をさせていだいたという感じですが。でも、お話を伺っているのは、やはり菅野先生は旧制なんです。

菅野▼どこが違うのか、なかなか論理化はできませんね。

蓮實▼論理化はできませんが、ちやちやとした新制じゃない。さすがに旧制をお出になった方で、お姿勢もお考え方も何かが一本通って、シャキッとしておられます。新制卒のわたくしどもには、とても真似できません。今日は、久しぶりにお目にかかれて、たいそう嬉しく思いました。有り難うございました。

（2019年6月14日、世田谷文学館館長室にて）

仁木悦子関連資料より

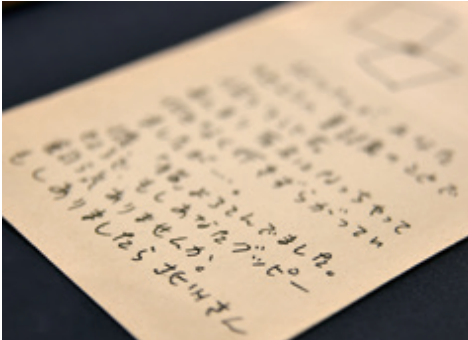
寺山修司

仁木悦子宛て書簡

推理作家で童話作家の仁木悦子(本名・大井三重子)関連資料は、2002年に夫で歌人・翻訳家の故・後藤安彦氏、昨年度に「日市可代氏の両氏から約650点をご寄贈いただきました。4歳で胸椎カリエスを患い寝たきりになった仁木は独学で執筆の道に入り、1957年に長編『猫は知っていた』で江戸川乱歩賞を受賞します。今回は仁木旧蔵書簡より寺山修司からの書簡をご紹介します。

寺山修司(1935-83)と
仁木悦子(1928-86)

二人の交友は1957年、仁木の乱歩賞受賞の記事を読んだ寺山が直接便りを出したのをきっかけに始まります(寺山氏、さよなら―群衆好みの共通性)、「短歌現代」1983年8月号所収)。20数点ある寺山書簡の日付は57年から59年までのものが多く、この頃、仁木は初連載「林の中の家」に取り組むなか、58年から国立身体障害者更生指導所(現・国立障害者リハビリテーションセンター)に長期入院し複数回にわた

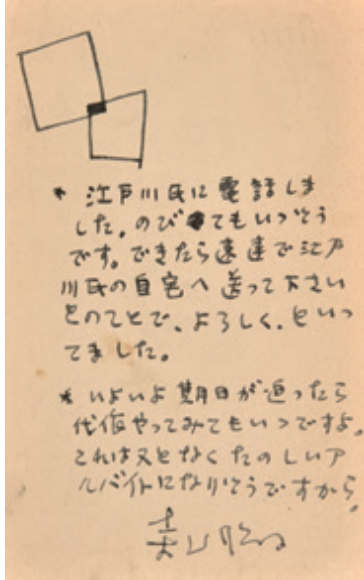


1957年12月21日消印

る両下肢の大手術を受けます。一方の寺山はこの頃、腎臓疾患のネフローゼ症候群を患い3年間の入院生活を強いられており、57年に第1作品集『われに五月を』、翌年に第2歌集『空には本』を刊行する時期にあたります。仁木29歳と寺山21歳、ともに活動初期に知り合ったふたりですが、病室で長時間過ごす境遇には、お互いにどこか通じるころがあったのかもしれない。

熱帯魚グッピー、乱歩の伝言

四角形を二つ並べた絵柄に「何だろう?」と思う方もいらつしゃるのではないでしょうか。これは「ある恋の物語」と題されたオリジナルのカットで、寺山を中学時代から支えた恩師・中野トク宛て書簡(1956年10月28日消印・三沢市寺山修司記念館所蔵)で題名を確認することが出来ます。寺山は当時、病室に水槽を置いて魚を飼っており、仁木に「もしあなたグッピー飼う気ありませんか」(1957年12月21日消印)と尋ねています。仁木の日記には、翌年7月8日に寺山からグッピーを受取り、9日にはそれらが子どもを産んで15匹



1958年7月15日消印

から3、40匹に増えたと記されています。「すつかり冬だというのに、僕のグッピーは百匹をこえちまった」(1957年冬推定)の書き出しで始まる便りも他にありますが、「ジメダカの和名を持つ小さな魚の繁殖力の強さには驚くばかりです。江戸川乱歩からの伝言も残されています。「江戸川氏に電話しました。のびてもいい、そうです」。「いよいよ期日が迫ったら代作やってみてもいいですよ」(1958年7月15日消印)。締切に窮する仁木を思いやる言葉が並びます。乱歩編集の雑誌『宝石』についてだと思われれますが、その後エッセイ「Kへの手紙」の原稿を、きちんと乱歩に送ったことが仁木の日記に書かれています。

本の出版

「北川さん」(1957年12月21日消印)は的場書房を創立した北川幸比古のことで、谷川俊太郎『絵本』などの詩書、寺山の散文詩集『はだしの恋唄』、第一歌集『空には本』も北川が刊行しました。的場書房は机一つの小さな出版社で、伊達得夫の書肆ユリイカと同じ昭森社ビルで出版活動をしました。のちに児童文学作家となる北川が、仁木の童話に興味を持っている様子が寺山の文面から窺えますが、実際に童話集の出版には至っていません。仁木悦子として推理作家デビューを果たし、作品がすぐに映画化されるほど話題となるものの、大井三重子として以前から書きためていた童話に関しては、なかなか出版の道はひらけず、1960年に自費で『ありとあらゆるもののびんづめ』を出版します。翌年、東都書房から最初で唯一の童話集『水曜日のクルト』が刊行されました。

※ 図版の資料はコレクション展「仁木悦子の肖像」2019年4月20日～9月23日で展示

小松左京展 -D計画-

「SFとは文学の中の文学である。
そして、SFとは希望である」
(小松左京『SF魂』)

2019年10月12日(土)～12月22日(日)



小松左京
映画『日本沈没』(1973年)に使われた深海潜水艇「わだつみ」セット前で



『日本沈没』創作メモ(一部)



愛用のキャノラ計算機。『日本沈没』執筆にあたり、「日本列島を沈めるためにはどれだけエネルギーが必要か」を知るため、日本の重量を計算した

見どころ I

作家・小松左京の誕生

小松左京は、京都大学でイタリア文学を学び、大学を拠点とする「京大作家集団」で、のちに芥川賞を受賞する作家・高橋和己と出会い親交を深めました。高橋とはその後も同人誌を創刊するなど、創作活動を共にしていきます。大学卒業後も小松の「文学」への志は変わりませんでした。が、漫画・漫才台本の執筆・雑誌記者などさまざまな職を転々とする時期がしばらく続きます。しかしついに1959年創刊された「SFマガジン」で世界のSF作品と出会い、「SF」こそが自らの表現にふさわしいジャンルと決め、本格的にSF作品を書き始めます。

本展では、作家・小松左京が誕生するまでを、学生時代の貴重な資料等とともにたどります。

見どころ II

小説『日本沈没』再読

『日本沈没』は売上累計470万部、2回にわたる映画化やテレビドラマなどを通じて、日本人なら誰もが知っている小松左京の代表作です。タイトルから既にその結末が示されている衝撃作ですが、本作の一番の衝撃は、結末に至るまでの精緻なシミュレーション、さまざまな立場で巻き起こる人間模様、登場人物たちの切実な心情の吐露、そして、小松自身の思考ともいえる「日本」「日本人」論の展開など、濃密な時間と空間がこの一作に凝縮されていることでしょう。

本展では、『日本沈没』をあらためて読み込み、これこそが小松文学の醍醐味、極上のエンターテインメントであることをお伝えしていきます。



1963年に創立した「日本SF作家クラブ」。一般的に認知されておらず、旅先の宿泊旅館では「サッカークラブ」の名で迎えられた。小松(後列左より2人目)は星新一、筒井康隆らとともに「日本SF」の創世記を牽引した

資料受贈報告

2019年1月31日～6月30日

▼阿部弘一様 新井啓子様 石井耕様 稲垣滋子様 稲垣信子様 井上ユリ様 大木志門様 小川晴子様 奥沢拓様 尾崎左永子様 岸田未知様 四宮義正様 清水久夫様 新保博久様 須永朝彦様 高橋稔様 坪野荒雄様 中村姫路様 星野美智子様 松本徹様 村瀬恵子様

▼志賀直吉様 志賀直哉著作権管理代表者志賀道哉様

▼赤磐市教育委員会 秋山庄太郎写真芸術館 石井桃子の会 伊豆市教育委員会 井上靖記念館いわき市立草野心平記念文学館 うらわ美術館 小田原市立図書館 賀川豊彦記念松沢資料館 柏書房 金沢文化振興財団 金沢文芸館 紙の博物館 環境文化創造研究所 北九州市立文学館 ギャラリーステーション 京都工芸繊維大学美術工芸資料館 久米美術館 群馬県立土屋文明記念文学館 小宮りやま文学の森資料館 国学院大学博物館 国文学研究資料館 国民みらい出版 高志の国文学館 駒澤大学禅文化歴史博物館 埼玉県平和資料館 斎藤茂吉記念館 四季派学会 七月社 司馬遼太郎記念館 若洲一滴文庫 昭和館 昭和女子大学光葉博物館 白百合女子大学言語・文学研究センター 白鳥吾吾記念館 新宿区立漱石山房記念館 仙台文学館 田原市博物館 たましん地域文化財団 駐日韓国文化院 鶴岡市立藤沢周平記念館 東京都江戸東京博物館 東京都教育庁地域教育支援部長崎歴史文化博物館 中原中也記念館 新美術館 記念館 西尾市教育委員会 日本近代文学館 日本現代詩歌文学館 日本トルストイ協会 沼津市芹沢光治良記念館 野口富士男文庫 ふくやま文学館 文化書房博文社 文京区立森鷗外記念館 北海道立文学館 松山市立子規記念博物館 三島市郷土資料館 水と緑と詩のまち前橋文学館 三鷹市山本有記念館 武蔵野美術大学美術館・図書館 武蔵野ふるさと歴史館 郵政博物館 与謝野晶子倶楽部 立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター 花恒春園サービスセンター 早稲田大学會津八一記念博物館 早稲田大学教育学研究科

▼「海」「海紅」「街道」「風」「経堂雑記」「くさくさ」「九品仏川柳会句会」「原型富士」「鴻」「香蘭」「心の花」「埼東文学」「山暦」「春耕」「抒情文芸」「川柳研究」「嵐」「短歌人」「地中海」「飛火」「白」「プチ★モンド」「文藝飯能」「文章歩道」「焰」「窓」「ゆうすげ」「ゆく春」「ランブル」「りんごの木」「暦日」(五十音順・団体名敬称略)

見どころ III

「大阪万博」

1970年開催の「大阪万博」は、6400万人を上回る来場者があり、戦後日本の歴史的催事として今も語り継がれています。小松左京は、この「大阪万博」の日本テーマ館サブプロデューサーとして尽力しました。小松は当時30代、執筆活動やラジオ番組出演など多忙を極める中、国家的プロジェクトにどのように挑んだのでしょうか。そのバイタリティーあふれる姿を、本展初公開の資料も交えて紹介します。



「大阪万博」テーマ館についての会議(1968年6月25日)、小松の右隣は岡本太郎

★ほかにも見どころ満載の「小松左京展」。どうぞお楽しみに！
※ 観覧料 無料 観覧日の詳細については12頁をご覧ください

コレクション展 展示風景



前期 新収蔵品 北杜夫コレクションを中心に
4月28日～9月17日



後期 徳富蘆花と鳥山ゆかりの文学者たち
10月6日～2019年3月31日

企画展 展示風景



筒井康隆展
10月6日～12月9日



ヒグチユウコ展 CIRCUS
2019年1月19日～3月31日



林芙美子 貧乏コンチクショウ展
4月28日～7月1日



ピーマイベイビー 信藤三雄レトロスペクティブ
7月14日～9月17日

教育普及事業



『おもしろ』(講談社)刊行記念 公開読書会 吉田篤弘×吉田浩美
×三浦しをん「小説の“終わり方”って何だろう？」 10月13日



pipio といっしょに親子で楽しむおはなしとあそびの時間
11月4日



だれでも小説家 ～ショートショートを書こう～
講師：荒井蘭 9月8、9、16日



トークイベント 「流行を考えてみる」
出演：田島一成、信藤三雄 9月16日



セタプンマーケット2018
6月2日



だれでも製本家 ～ことばのない絵本を作ろう～
講師：佐藤真紀、中野裕子 8月4日

平成30年は展覧会や催事などで新たなチャレンジをした年となり、利用者総数は26万人台を記録した。企画展示では、先駆性とポピュラリティを同時に獲得してきた4人の作家を取り上げた。「林芙美子 貧乏コンチクショウ」あなたのための処方箋」では、林芙美子が極貧生活の中で綴っていた詩と言葉の力強さを、現代を生きるヒントと捉えた。幼少期の行商生活を経て職を転々とし、恋愛にも苦しんだ芙美子が文字通り『放浪記』の青春を送った世田谷太子堂時代の作品を中心に紹介した。

『ピーマイベイビー 信藤三雄レトロスペクティブ』は、日本の音楽シーンをリードしてきたミュージシャンのCDジャケットを多数デザインし、革新的なプロダクトを世に送りだしてきたアートディレクター・信藤三雄のクリエイティブの全貌に迫った。90年代東京のポップカルチャーを代表するクリエイターの個展であり、会場は多感な時期に信藤が手がけた音楽アルバムに出会った40歳前後の世代で賑わった。

「筒井康隆展」は、現代日本文学の最高峰にして最前衛に位置する巨人の全貌を立体化する初の試みである。当館ではこれまでSFをテーマとする展覧会に取り組んできており、本展は待望久しい企画でもあった。ジャンル・テーマ共に多種多様な膨大な作品群、多岐にわたる活動を余すところなく紹介する全長85メートルの巨大年表パネルを、会場一面に一筆書きのように張り巡らす新しい演出を試みた。

「ヒグチユウコ展CIRCUS」は、可愛らしくもダイナミックな世界観で幅広い層の女性たちから絶大な支持を集める、ヒグチユウコ(画家・絵本作家)初の全国巡回展を開催した。入場者数6万人強はこれまでの最多数を記録した。展示内容はもとより関連グッズへの

関心が高い来場者で賑わうなど、今後の事業展開の上で学ぶところの多い展覧会となった。

コレクション展は、前期「新収蔵品 北杜夫コレクション」を中心に、後期「徳富蘆花と鳥山ゆかりの文学者たち」を開催、それぞれ筆資料などを中心に調査研究の成果を反映させた。また、「ムットーニのからくり書物」コーナーでは、新規収蔵の3作品を加え、プログラムを充実させた。このほか、貸出・閲覧等の需要の多い収蔵品のデジタル画像化も推進。齋藤茂吉歌集稿本、わが国の三大探偵小説と称される『黒死館殺人事件』原稿の全頁デジタル画像化を行った。今後の調査・研究に活用していきたい。

教育普及事業については、出張展示や館の内外でワークショップなどの活動を行う「どこでも文学館」は、のべ37回の展示と22回のワークショップを実施した。そして、ライブラリー「ほんとか」では、新たに読み聞かせワークショップや、1冊の本について参加者が一緒に考える「哲学カフェ」も開始した。新規に開発した出張展示キット「セタプン人生相談」あなたのための人生処方箋」は、世田谷ゆかり作家の名言を「心のお薬」と捉えた内容で、後期コレクション展で先行展示を行った。

企画展関連のイベントでも、いくつかの新しい試みを行った。「林芙美子 朗読ショー ★貧乏コンチクショウ」「ヒグチユウコ展CIRCUS ナイトミュージアム」では、参加者に展示室内で作品と朗読や音楽を同時に鑑賞していただいた。また「筒井康隆展」では作家の愛蔵品や蔵書のオークションを実施。作家本人がオークションアを務め、エピソードを披露しながら進行するという前例のない催事となるなど、平成30年度は事業内容の枠を広げた年でもあった。

TOPICS

企画展関連イベント



朗読ショー ★ 貧乏コンチクショウ
出演：デリシャスウィーツ 6月30日



トーク&オークションイベント「わたしの筒井康隆」
出演：中川翔子、筒井康隆 12月1日



ナイトミュージアム
出演：黒色すみれ、史栴穂 2月16日

どこでも文学館・ほんとか



ほんとか哲学カフェ
講師：井尻貴子ほか 6月16日

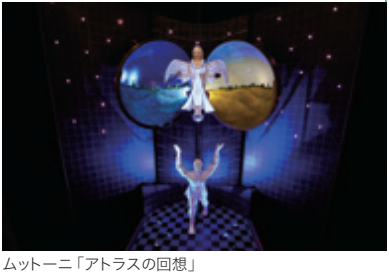


もっと朗読を楽しもう～プロの読み方を聞いてやってみよう～ 講師：緒方賢一、水田わさび 10月14日



出張展示キット「セタプン人生相談」

新収蔵品



ムットーニ「アトラスの回想」



ムットーニ「蜘蛛の糸」



ムットーニ「題のない歌」

2018(平成30)年度
事業一覧

1 展覧会	
開催日	内容
●ミロコマチコ展関連イベント	
4/4	ミロコマチコライブペインティング 出演:ミロコマチコ
●林芙美子展関連イベント	
4/28	朗読会 「林芙美子作品を読む」 出演:ふみのしおり
5/26	芙美子のまちを歩く「落合篇」 協力:新宿歴史博物館ボランティア
6/30	朗読ショー ★貧乏コンチクショウ 出演:デリシャスウィーツ

2-1 普及事業:展覧会関連イベント

開催日	内容	参加者数(人)
●ミロコマチコ展関連イベント		
4/4	ミロコマチコライブペインティング 出演:ミロコマチコ	121
●林芙美子展関連イベント		
4/28	朗読会 「林芙美子作品を読む」 出演:ふみのしおり	120
5/26	芙美子のまちを歩く「落合篇」 協力:新宿歴史博物館ボランティア	18
6/30	朗読ショー ★貧乏コンチクショウ 出演:デリシャスウィーツ	215

●信藤三雄展関連イベント

7/21	320 ガラージセール	200
8/5	トーク 「音楽とアートワークの蜜月時代 ～“渋谷系”はなぜ生まれたのか」 出演:信藤三雄、牧村憲一	173
8/7	トークイベント 「小山田圭吾(コーネリアス)×信藤三雄」	184
8/28	トークイベント 「小西康陽×信藤三雄」	194
9/1	レクチャー 「世田谷音楽図鑑 ～柳田ヒロと日本のロックの源流」 出演:柳田ヒロ、牧村憲一	45
9/2	芸術家団OBANDOS×永遠のガールズポップ THE SCOOTERSのビーマイベイベー LIVE	168
9/16	トークイベント 「流行を考えてみる」 出演:田島一成、信藤三雄	166

●筒井康隆展関連イベント

10/6～ 11/25 (全17回)	「筒井康隆劇場」特別上映	151
11/3	トーク&オークションイベント 「わたしの筒井康隆」第1回 出演:菊地成孔、筒井康隆	198
11/24	朗読会 「筒井康隆とはじけよう!」 出演:声を楽しむ朗読会	90
12/1	トーク&オークションイベント 「わたしの筒井康隆」第2回 出演:中川翔子、筒井康隆	201
12/8	記念対談「筒井康隆を語る」 出演:松浦寿輝、筒井康隆	178

3 ライブラリー・講義室・絵本コーナー等

施設	利用者数(人)
ライブラリー	31,410
講義室	2,459
くつろぎスペース	6,714

4 文学資料収集・保管(点数)

平成30年度収蔵点数	541点
平成30年3/31現在の収蔵品点数	100,176点
特別観覧件数(撮影点数)	68点

6 年間利用者数

	※一部イベント参加者は含まず
	267,931人

* 2018(平成30)年度 助成・協賛

助成	芸術文化振興基金 / 平成30年度 文化庁 地域と共創した美術館・歴史博物館創造活動支援事業
協賛企業・団体	株式会社ウテナ / 東邦ホールディングス株式会社 / 昭和信用金庫 / 世田谷信用金庫 / 株式会社ベネッセスタイルケア 芦花翠風邸 / 鳥山駅前通り商店街振興組合 / JA 東京中央 / 芦花公園商店街振興組合

展覧会名	会期	日数	一般観覧料	観覧者数(人)
●コレクション展				
2017後期 SF・再始動	4/1～4/8	7日	200円	1,599
前期 新収蔵品・北杜夫コレクションを中心に	4/28～9/17	123日	200円	9,254
後期 徳富蘆花と鳥山ゆかりの文学者たち	10/6～3/31	140日	200円	16,400
●企画展				
ミロコマチコ いきものたちの声がきこえる	4/1～4/8	7日	800円	3,741
林芙美子 貧乏コンチクショウ展	4/28～7/1	56日	800円	5,408
ビーマイベイベー 信藤三雄レトロスペクティブ	7/14～9/17	57日	800円	13,050
筒井康隆展	10/6～12/9	56日	800円	8,993
第37回 世田谷の書展	1/8～1/14	7日	無料	621
ヒグチュウコ展 CIRCUS	1/19～3/31	62日	800円	63,932

●世田谷の書展関連イベント

1/9	世田谷の書展鑑賞講座1 講師:稲村龍谷	31
1/12	世田谷の書展鑑賞講座2 講師:池亀壽泉	33
1/14	世田谷の書展鑑賞講座3 講師:川口青澄	75

●ヒグチュウコ展関連イベント

2/2、16	ナイトミュージアム 出演:黒色すみれ、史杞穂	169
3/16	黒色すみれとヒグチュウコのサーカス・ナイト 出演:黒色すみれ 口上:佐藤泉	213

2-2 普及事業:どこでも文学館

開催日	内容	参加者数(人)
●どこでも文学館(出張展示)		
通年	世田谷文学館、区内小中学校、区民センター、96,949 群馬県川場村、区民健康村など	

●どこでも文学館(催事)

6/2	ネイチャー・コラージュ ～自然素材に親しもう～ 講師:須藤正男、大坂将斗	200
7/29	だれでも絵描き ～画家の仕事を体験しよう～ 講師:吉田花子、横山杏奈	18
8/4	だれでも製本家 ～ことばのない絵本を作るう～ 講師:佐藤真紀、中野裕子	19
8/7	日本最先端施設見学 ～身近な乗り物の科学技術を学び、 将来を考えよう～	14
8/9	植物と遊ぼう ～植物っておもしろい 命ってすごいよ～ 講師:伊東豊	60
8/18	ことばとたんか ～古典を楽しもう～ 講師:天野慶	18
8/21	ことばとからだ ～からだで表現しよう～ 講師:日本女子体育大学ダンス・プロデュース 研究部	25
8/31	もっと絵本を楽しもう ～プロの読み方を聞いてやってみよう～ 講師:天野慶、小平有希	35
9/8、9、 16	だれでも小説家 ～ショートショートを書こう～ 講師:荒井蘭	38

9/29	ネイチャー・コラージュ ～自然素材に親しもう～ 講師:須藤正男、井上寿々子	67
10/14	もっと朗読を楽しもう ～プロの読み方を聞いてやってみよう～ 講師:緒方賢一、水田わさび	7
11/17	ネイチャー・コラージュ ～自然素材に親しもう～(八幡山小学校) 講師:加藤信元	85
11/21、 22、27	芦花小学校+大竹英洋ワークショップ 講師:大竹英洋	428
2/11	ほんとわ哲学カフェ 講師:井尻貴子、尾崎絢子	16
2/16	超ショートショート講座(山野小学校) 講師:田丸雅智	11
3/3	バルーンアート・ワークショップ 講師:コンフェッティバルーン Hara harari (中村みゆき他)	150

2-3 普及事業:セタブンマーケット、
ライブラリー「ほんとわ」関連イベント

開催日	内容	参加者数(人)
6/2	セタブンマーケット2018	1,546
6/2	似顔絵WS (someone somewhere/my passport)	18
6/16	哲学カフェ	25
7/27	pipioといっしょに親子で楽しむ おはなしとあそびの時間	29
8/25	pipioといっしょに親子で楽しむ おはなしとあそびの時間	23
10/13	『おるもすと』(講談社)刊行記念 公開読書会 吉田篤弘×吉田浩美×三浦しをん 「小説の“終わり方”って何だろう?」	94
11/4	pipioといっしょに親子で楽しむ おはなしとあそびの時間	17
11/7	0才からのジャズコンサート	372
11/16	pipioといっしょに親子で楽しむ おはなしとあそびの時間	30
12/1～2	セタブンマーケット「ミニニ本市」	520

2-4 普及事業:活動支援・共催事業 その他

開催日	内容	参加者数(人)
通年	市民活動・世田谷文学館友の会支援、区内生涯 学習グループ・大学からの展覧会見学の解説や 学芸員実習の受け入れ、区民センターへの出 張講座、友の会との共催イベントなどを行った	593

5 刊行物

タイトル	判型 / 頁数	価値(円)
●世田谷文学館ニュース		
第69号 8月 当館収蔵品のご紹介:特別寄稿 北杜夫コレクション茂吉遺品・真筆類 ——殊に歌集稿本について—— 秋葉四郎	A4/12	無料
第70号 12月 館長の作家対談:筒井康隆 当館収蔵品のご紹介:新高恵子寄贈資料 ——「ボクシングは、血と涙のブルースだ」寺山修司——	A4/12	無料
第71号 4月 館長の作家対談:小川洋子	A4/12	無料
●展覧会図録		
「ミロコマチコ いきものたちの音がきこえる」図録(毎日新聞社発行)	250×212mm/151	2,130
「林芙美子 コンチクショウ手帖」	A6/144	800
「ビーマイベイベー 信藤三雄レトロスペクティブ」図録(平凡社発行)	A5変形/328	3,200
「筒井康隆展」図録	150×210mm/111	1,300
「ヒグチュウコ展 CIRCUS」画集(グラフィック社発行)	195×265mm/209	3,456
●その他		
どこでも文学館報告書2018	B2(4ツ折)/1	無料
本と輪 この3冊 volume3	A3(DM折)/1	無料
本と輪 この3冊 volume4	A3(DM折)/1	無料

イベント他 ポスター・フライヤー



セタブンマーケット 2018



どこでも文学館



年間カレンダー



本と輪 この3冊 volume 4



本と輪 この3冊 volume 3



ヒグチュウコ展 CIRCUS



コレクション展 ムットーニコレクション



どこでも文学館 報告書 2018年



筒井康隆展



第37回世田谷の書展



筒井康隆展図録

展覧会ポスター・フライヤー



林芙美子 貧乏コンチクショウ展



ビーマイベイベー 信藤三雄
レトロスペクティブ

発行物



林芙美子 貧乏コンチクショウ展
コンチクショウ手帖

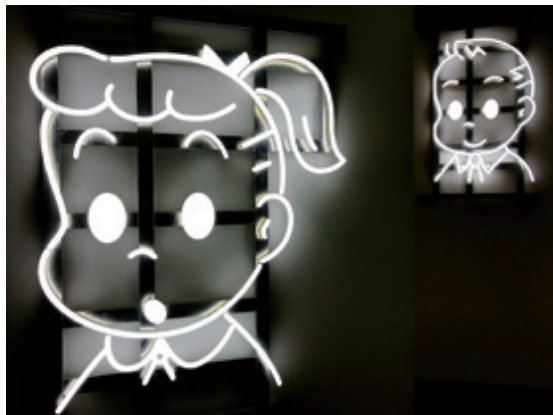


ビーマイベイベー 信藤三雄
レトロスペクティブ 展覧会図録
(平凡社刊)

企画展

原田治 展 「かわいい」の発見
Osamu Harada: Finding "KAWAII" ～9月23日(月・祝)
2階展示室

観覧料: 障害者手帳をお持ちの方 400(320)円
一般 800(640)円 * ()内は20名以上の団体割引料金
高校・大学生・65歳以上 600(480)円 *9月16日(月・祝)は60歳以上無料
中学生以下無料



コレクション展

仁木悦子の肖像 ～9月23日(月・祝)
1階展示室

観覧料: 小・中学生・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方 100(80)円
一般 200(160)円 * ()内は20名以上の団体料金
高校・大学生 150(120)円 *中学生以下 土・日・祝日・夏休み期間は無料
*9月16日(月・祝)は60歳以上無料



企画展	原田治 展 「かわいい」の発見 7月13日(土)～9月23日(月・祝)	小松左京展-D計画- 10月12日(土)～12月22日(日)
8月	9月	10月
コレクション展	仁木悦子の肖像 4月20日(土)～9月23日(月・祝)	「新青年」と世田谷ゆかりの作家たち 10月12日(土)～2020年4月5日(日)

企画展

小松左京展
-D計画-



10月12日(土)
～12月22日(日)
観覧料: 一般800円
高校・大学生・65歳以上600円
小・中学生300円
*10月18日(金)は65歳以上無料

コレクション展

「新青年」と世田谷ゆかりの作家たち

10月12日(土)～2020年4月5日(日)

観覧料: 一般200円 *10月18日(金)、1月24日(金)は
高校・大学生150円 65歳以上無料
65歳以上、小・中学生100円

企画展・コレクション展ともに団体(20名以上)は2割引
障害者手帳をお持ちの方は一般料金の半額

開館時間:
10時～18時(展覧会入場
は17時30分まで)

休館日:
毎週月曜日(月曜日が祝日
の場合には開館し翌平日
休館)

交通案内:
京王線「芦花公園」駅
南口より徒歩5分
小田急線「千歳船橋」駅より
京王バス(千歳鳥山駅行)「芦花恒春園」下車徒歩5分

*駐車場は利用台数が限られます。公共交通機関のご利用をお願いします



公益財団法人せたがや文化財団

世田谷文学館 SETAGAYA LITERARY MUSEUM

〒157-0062 東京都世田谷区南鳥山1-10-10

Tel. 03-5374-9111 Fax. 03-5374-9120

ホームページ <https://www.setabun.or.jp/>

せたがや文化財団の催し物

■世田谷美術館 [Tel. 03-3415-6011]

- 高橋秀十・藤田桜 素敵なふたり
2019年7月6日(土)～9月1日(日)
- チェコ・デザイン 100年の旅
2019年9月14日(土)～11月10日(日)



ヴァーツラフ・シュペーラ、
アルチエル協同組合《童話
の鳥》社 1920年 チェコ
国立プラハ工芸美術館蔵
Collection of The
Museum of Decorative
Arts in Prague

■世田谷美術館分館
向井潤吉アトリエ館
[Tel. 03-5450-9581]

- 草屋根と絵筆
向井潤吉のエッセイとともに
2019年4月2日(火)～10月6日(日)
*空調設備等の改修工事のため、2019年10月7日
から2020年4月17日(金)まで休館

■世田谷美術館分館
清川泰次記念ギャラリー
[Tel. 03-3416-1202]

- 清川泰次
色・線・形の探求とデザインへの展開
2019年10月26日(土)～2020年3月15日(日)

■世田谷美術館分館
宮本三郎記念美術館
[Tel. 03-5483-3836]

- 宮本三郎
風景を描く
2019年10月26日(土)～2020年1月13日(月・祝)

■世田谷文化生活情報センター
世田谷パブリックシアター
[Tel. 03-5432-1515 チケットセンター]

●『終わりのない』

2019年10月29日(火)～11月17日(日)
脚本・演出: 前川知大
出演: 山田裕貴、安井順平、奈緒、村岡希美、
仲村トオルほか

- 世田谷アートタウン 2019関連企画
カンパニー ルーブリエ/ラファエル・ボワテル
『When Angels Fall / 地上の天使たち』
2019年10月18日(金)～20日(日)
世田谷パブリックシアター
演出・振付: ラファエル・ボワテル
出演: カンパニー
ルーブリエ



© Marina Levitskaya

■世田谷文化生活情報センター
生活工房 [Tel. 03-5432-1543]

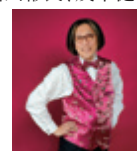
- 家族って
しまおまほと家族、
その記憶と記録 展
2019年9月21日(土)
～11月10日(日)
生活工房ギャラリー
撮影: 島尾伸三



- くすむるを旅するーアジアとアフリカ、
あの坐り方と低い腰かけ
2019年11月16日(土)～12月8日(日)
生活工房ギャラリー/ワークショップルームB

■世田谷文化生活情報センター
音楽事業部 [Tel. 03-5432-1535]

- 宮川彬良のせたがや音楽研究所 #11
～せたがや音楽研究所的
“かなり大胆な”音楽史～
2019年9月14日(土) 17時
世田谷区民会館
出演: 宮川彬良、茂木健一郎



宮川彬良 ©PACO



茂木健一郎